

題材名「Vocabulary Building」

■ 目 標

- ・ 英語による情報を、視覚・聴覚の両方から取り入れ、語彙力・発話力の増強に努める。
- ・ 視聴（入力）して得た情報・語彙を発話（出力）に生かせるようにする。

■ コンピュータを活用する利点

DVD で見せた映像教材に出てきた新語彙を、直後にスライドで提示し、ALT と担当教員が音声面で説明することによって、英語を英語で理解する反射的な活動につなげることができる。

■ 授業の流れ

DVD で BBC 制作のドキュメンタリーフィルムを見る

字幕と音声によって、話の内容をおおまかに理解

語彙スライドを見せながら、意味・発音確認

再び字幕なしの音声と映像で内容を確認（Input）

この時間に視聴した内容をもとに、「色が私たちの生活に与える効果」についてディスカッションを行う（Output）

■ ICT 活用場面

実際の会話場面では、日本語から英語に訳す時間はなく、英語を英語としてとらえ、即座に返答することが求められる。一つ一つ、音声を文字に変換して意味を調べていたのでは不可能である。同時に、外国語である英語を音声だけで認識し、意味を理解することも難しい。そこで、この講座では音声として聞いたものを、瞬間的に視覚化することでリスニングの助けとし、英語を易しい英語に置き換える訓練をすることによって、英語で考える習慣をつけるように試みている。パワーポイントを利用することで、視覚的な補助を容易にすることができる。



■ 成果と課題

開講当初はホワイトボードに語句を書き出したり、プリントに書き込ませながら、英語を英語に置き換えていったので、一つ一つの語句を確認するのに時間がかかりすぎた。スライドを用いることで、授業がスピーディーになり、瞬間瞬間で易しい英語に言い換える（または定義を聞いてその語を言い当てる）習慣がついてきた。反射的な言語活動には適していると思われる。

反面、ノートに書き写したり、辞書で調べたりする時間がない分、この授業を終えてから、どこまで語彙力が定着するかは疑わしい。2課ごとにボキャブラリーテストを行っているが、平均点は半分を割っているため、いかに語句を定着させながら反応を早くできるかが、今後の課題である。

■ ICT 活用環境等

使用周辺機器	DVD プレイヤー、プロジェクター、PC ポータブル（黒板貼り付け型）スクリーン
使用ソフト名	Power Point
使用教室	人文棟 A67